

●自然体験①

キャンプファイヤー

(動画はこちら)



概要

1日の活動の締めくくりや、宿泊学習をふりかえるセレモニーとして、仲間と共に赤々と燃えるひとつの火を囲みます

人数

・何人でも

対象

・幼児～

実施期間

・通年

所要時間

・45分～60分程度



活動場所

- ・屋外(どんぐり広場、しらかば広場、くるみ広場、くわの実広場)
- ・屋内(多目的ホール)

指導のねらい

- ・自分たちでレクリエーションの進行を考えたり、考えた内容を発表したりすることで、表現力を養う
- ・1日の活動を振り返る場面として、全体での一体感を高める

活動のながれおよび留意点

- ・詳細は別紙1～3 参照

準備物品

【山の家で貸出・購入可能なもの】

- ・無線機、放送設備用具、ワイヤレスマイク、
- キャンプファイヤーセット(4,500円)

【団体に準備するもの】

- ・トーチ棒、ライター、新聞、軍手(火を扱う人数分)

留意点・備考

キャンプファイヤー（屋外）

準備

① 事務室から放送設備用具を借りる



【くわの実広場】



【どんぐり・くるみ・しらかば広場】
音響機器の鍵・マイク 2 本・予備電池

② 小屋の前に準備されたキャンプファイヤーセット（リアカー）を広場へ運ぶ



キャンプファイヤーセット
(4,500 円)の内容
・広葉樹薪 10 本
・井桁薪 8 本
・灯油 ・バケツ
※トーチ棒（販売あり）、
ライターなどは
団体でご準備ください

③ 営火場のブロックの上に薪を組む



緊急時に備えて、
消火バケツに水を入
れて置いておく

※くわの実広場で実施する場合は、小屋の間にある
鉄板を引いて薪を組むとよい

※薪の組み方は別紙3参照

④ トーチ棒に灯油を染み込ませる

・余分な灯油は、しっかりと切り、持ち手に垂れて
こないようにする

・トーチ棒の持ち方を必ずこどもたちと確認する

持ち込みのトーチ棒は、灯油をかける前に
山の家職員が安全確認をいたします。

※トーチ棒の作り方、扱いについては別紙3参照

片付け

① 【どんぐり・くるみ・しらかば広場】

燃え殻に水をかけ、完全に消火する



各広場の水場にある
ホースを使ってもよい

② 【どんぐり・くるみ・しらかば広場】

消火した燃え殻を一輪車で運び、ドラム缶に入れる



③ 使った道具、放送設備の電源などを復元する

① 【くわの実広場】

燃え殻を消火せず、燃えたままスコップで灰を集め
る



② 【くわの実広場】

燃え殻を一輪車で運び、ドラム缶に入れる



細かい灰は、
軍手着用のうえ、
鉄板を持って
ドラム缶に
入れてもよい

④ 無線機、放送設備用具を事務室へ返却する

※リアカーは小屋の前へ戻す

留意点

・ 防寒、防虫対策に配慮のうえ実施する

キャンプファイヤー（屋内）

※ 準備と片付けに必ず山の家職員が立ち会います。準備開始時、片付け時に事務室までご連絡をお願いいたします。

準備

① 防火マットを排煙ダクトの真下に敷く



② 敷いたマットの上にファイヤープレートを運ぶ



③ ファイヤープレートの上に井桁を組む

※薪の組み方は別紙3参照

④ トーチ棒に灯油を染み込ませる

※トーチ棒の作り方、扱いについては別紙3参照

片付け

① 片付けセットを多目的ホールへ運ぶ



② スコップで燃え殻を移し、野外ステージへ運ぶ



③ 野外ステージで防火マット上に飛び散った灰をほろう



④ 使った道具、放送設備の電源などを復元する

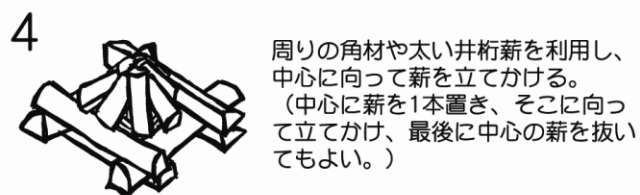
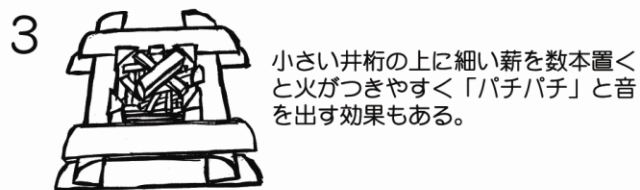
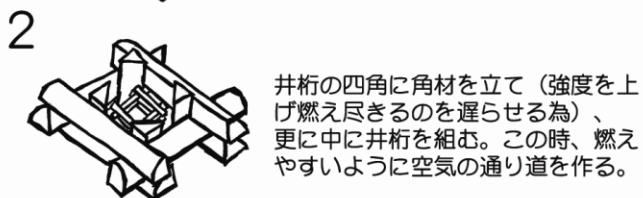
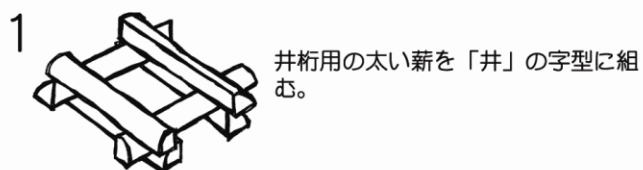
留意点

- ・ トーチ棒に火を点けた後は、速やかに吸煙ダクトの下へ移動する
 - ※ 多目的ホール内に煙が充満し、火災報知器が作動する可能性があります
- ・ 火の神のトーチ棒は野外ステージ側のすぐ屋外に出られる場所で火をつける
 - ※器具庫不可
- ・ 複数の団体が連続利用する可能性があるため、割当てられた時間内で準備から片付けを行う



— 資料 —

(1) 井げたの組み方



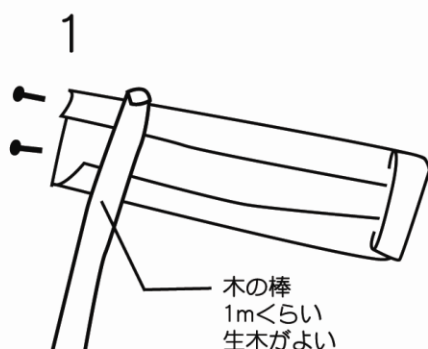
※井桁を組む際は予めトーチを入れる隙間があるか確認しましょう。

※余った薪は火の様子を見ながら加減して足していくとよいでしょう。

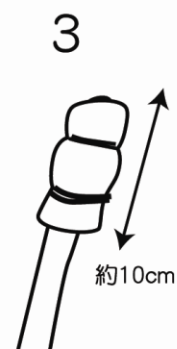
※灯油を使う場合は一気に燃え上がってしまうので、かけすぎないように注意しましょう。

(2) トーチ棒の作り方

途中で壊れるととても危険なので、トーチ棒はしっかりと作りましょう。トーチ棒は、キャンプファイヤー直前に灯油をしみこませて使います。灯油が垂れないように、余分な灯油は新聞紙で布の付け根部分を拭き取るなどしておきます。



布の端をクギでとめる



できあがり

(3) トーチ棒の扱いについて

火のついたトーチ棒を持つ時は、むやみに怖がったり遊んだりしないように注意し、腕をまっすぐに伸ばして、しっかり握って持ちましょう。また、風向きや周囲の人との間隔に注意しましょう。

